

Nikon

TTL 調光シンクロコードSC-14

(SB-17・SB-16A・SB-12用)

TTL Remote Cord SC-14

(for SB-17/SB-16A/SB-12)

各部の名称

Nomenclature

カメラ取り付けシュー
Mounting foot

アクセサリースシュー
Accessory shoe

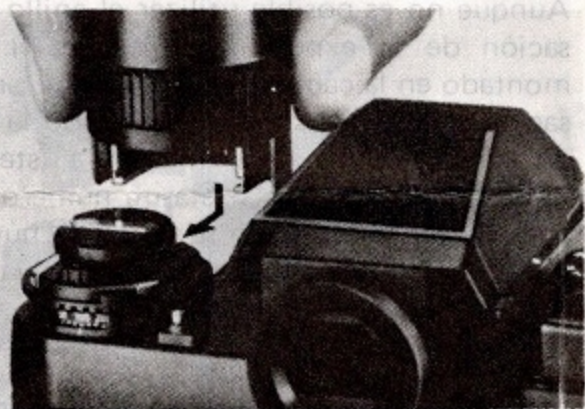
ASA/ISO目盛
ASA/ISO film
speed scale



ロックリング
Locking ring

ASA/ISOセットリング
ASA/ISO film
speed setting ring

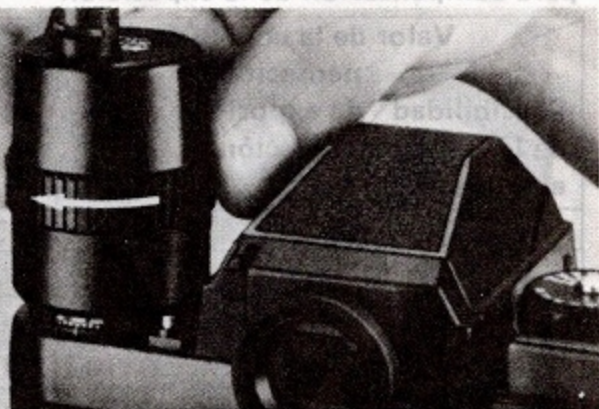
三脚穴
Tripod socket



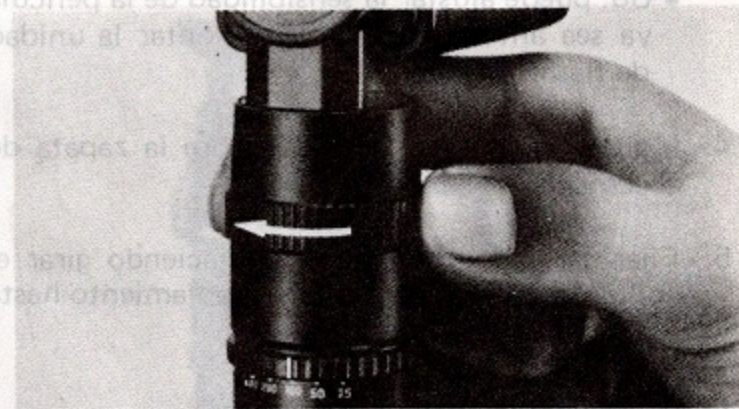
(写真 1) (Fig.1)



(写真 4) (Fig.4)



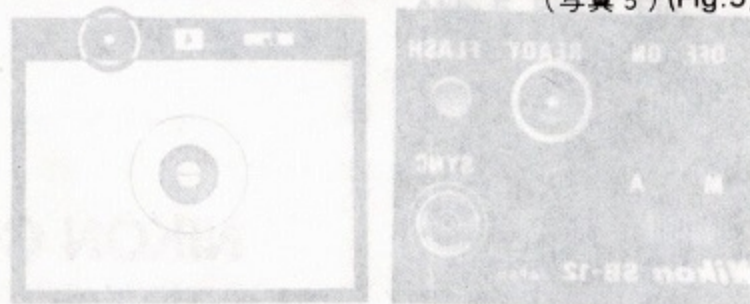
(写真 2) (Fig.2)



(写真 5) (Fig.5)



(写真 3) (Fig.3)



はじめに

TTL調光シンクロコードSC-14は、スピードライトSB-17・SB-16A・SB-12をニコンF3シリーズカメラから(約1m)離してもTTL自動調光撮影が行える延長コードです。スピードライト本体をカメラから離して撮影できますから、バウンス撮影や撮影レンズの光軸から離れた照射も可能など、スピードライト撮影の領域をより一層広げることができます。また、TTL自動調光機能の他、レディライト信号もそのまま使用できますから、TTL自動調光範囲外警告、取りつけ不完全警告、およびスピードライト充電完了をファインダー内で確認することができます。なお、TTL自動調光、マニュアル撮影、フラッシュシンクロ等の基本的性能、及び使用法は、スピードライト本体の使用説明書をご参照ください。

カメラへの取り付け

TTL調光シンクロコードSC-14のカメラ取り付けシューのロックリングを回して、取り付け部後面を開きます。F3シリーズカメラのアクセサリースュー部に、前方からSC-14のカメラ取り付けシューを差し込み(写真1)、ロックリングを回して固定します(写真2)。次に、SC-14のアクセサリースュー下部のASA/ISOセッティングを持ち上げて回し、使用するフィルムのASA/ISO値にセットします(写真3)。最後に、スピードライトをSC-14のアクセサリースューに取りつけ(写真4)、脚部のロックリングを閉じて固定します(写真5)。

●SC-14のASA/ISO目盛は、スピードライト装着後もセッティングし直すことができます。

●F3シリーズカメラのASA/ISO目盛は、どこにセットされていても直接このSC-14を使用したスピードライト撮影には無関係です。しかしながら、スピードライト撮影以外の通常の撮影時に影響しますので、フィルム装填時に必ず使用フィルムの感度を正しくセッティングしておいてください。

使用方法

TTL調光シンクロコードSC-14に取りつけたスピードライトを、手持ち、もしくはSC-14のアクセサリースュー底部の三脚穴を利用して三脚等に固定して撮影します。スピードライトの電源スイッチを入れると、F3シリーズカメラのシャッターダイヤルがA(オート)、1/2000~1/125秒にセットされていても、同調シャッタースピード1/80秒に固定されます。

TTL自動調光撮影

TTL自動調光撮影における、フィルム感度(ASA/ISO)範囲は25~400、使用絞り範囲f/2~f/22、調光可能範囲は0.6m~12m(ASA/ISO100)とそれぞれの関係はSC-14を使用しない場合と変わりありません。(詳しくはスピードライト本体の説明書をごらん下さい。)また、TTL自動調光が作動しなかった場合F3シリーズカメラおよびスピードライトのレディライトが約2~3秒間程点滅警告します。SC-14を用いスピードライトとカメラを離して使用する場合には、調光可能範囲はスピードライトの発光部と被写体間の距離(発光距離)となります。したがって、各使用絞り値に対する調光可能範囲はカメラの位置に無関係となりますから、たとえば接写撮影などでカメラと被写体が接近した場合でも、スピードライトを調光可能距離まで離せば、TTL自動調光で撮影可能となります。

- 一般に電池の電圧は使用中に徐々に低下するため、スピードライトのガイドナンバーも若干低下します。また、スピードライトの発光量は距離が同じでも被写体の反射率や周囲の状況により異なります。これらの原因により、調光範囲内でも最遠距離付近では調光範囲外警告(レディライトが点滅)が行われることがあります。
- 一般に接写で撮影倍率を大きくするとその倍率に応じて露出倍数がかかりますが、TTL自動調光の場合には自動的に補正されます。ただし、この場合は、通常よりも多くの光量が必要となり、最遠距離側の調光範囲が短くなりますのでご注意ください。スピードライトの位置が遠すぎますと、スピードライトはフル発光し、調光範囲外警告(レディライトが点滅)が行われます。
- SC-14を使用したTTL自動調光時の露出補正には、F3シリーズカメラの露出補正目盛は使用できませんので、下表のようにSC-14のASA/ISO目盛をセッティングし直して行います。たとえば、フィルム感度ASA/ISO100のフィルムを使用しているときに、+1段露出オーバー側に補正する場合はASA/ISO50に、また、-1段露出アンダー側に補正する場合にはASA/ISO200にSC-14のASA/ISO目盛をセッティングします。この場合、撮影後は忘れずにASA/ISO目盛を元に戻すよう注意してください。

露出補正目盛	+2	+1	0	-1	-2
使用フィルムの感度					
25	-	-	25	50	100
50	-	25	50	100	200
100	25	50	100	200	400
200	50	100	200	400	-
400	100	200	400	-	-

レディライト表示

スピードライトの電源スイッチを入れ、充電完了すると同時にF3シリーズカメラのファインダー内レディライトが点灯します(写真6)。また、TTL自動調光作動が行われずにスピードライトがフル発光したときはレディライトが約2~3秒間程点滅し(写真7)、SC-14のアクセサリースューへの取り付けが不完全な場合はレディライトが点滅し続けます(写真7)。



点灯(写真6)



点滅(写真7)

仕様

全長: 約1m

重量: 約140g